

なきごえ



1967

11

大 阪 市
天 王 寺 動 物 園

サル の 話 〔I〕

吉田平七郎

サルを知ることは人を知ることに通じると学者はいう。せつかく動物園にはいろいろのサルが見られるので人とサルのつながりを知っておく必要がある。

霊長目すなわちサルのなかまは最も原始的下等なツパイからキツネザル、ロリス、メガネザル、オマキザル(広鼻猿類)、オナガザル(広鼻猿類)、その上に人と類人猿が一括され、全体で52属209種もあるので手とり早く人気物のチンパンジーを登場させることにした。近年内外のアフリカに於ける野生チンパンジーの調査で知られた興味のある話題は彼等が道具を使い又挨拶をするという。

彼等はアリやシロアリが好物で草の茎や小枝を穴にさし入れて、それにたかった獲物をうまくなめ取って食べている。更に驚異に値するのは原始的な道具の使用にとどまらず道具をつくり出す可能性の芽ばえさえ見られたケースがある。木のうつろに水だまりがあり彼等が口をつけて飲んで次第に口がとどかなくなった時、彼等は先づ木の葉をつんで口中に入れ、しわくちゃんにくだ葉をとり出してそれを小さい木のうつろの中に入れ、それをひろいあげると水びたしになっていて見事に水を吸出することに成功したのである。これは人間がスポンジを使って吸水させる技術に匹敵する。中には葉をひきちぎり卵と同時に飲んで後葉と卵のからをはき出して中味をうまく食べたものもあった。手に何かついて気持ち悪い時にはよく葉を利用していたというのがこれは彼等のハンカチである。

棒や石を投げるのがあっても単なる誇示で攻撃や防禦の武器として利用しない。しかしあるグループで体が大きいのに皆のものからいじめられ常にびくびくしていた一頭がいた。彼はある時探検隊のキャンプで石油の空カンを見つけた。それをいじってみると大きな音を出すことを学び、それを投げたり引っぱりして仲間ものを驚かせた。チンパンジーは原則的に彼自身の叫声以外の大きな音を憎悪する。そこで空カンによるふしぎな誇示で他の連中を恐怖におとし入れ、それを駆使する彼自身は一躍英雄視され出し彼の優位が承認されてその後も彼が近づくと地上に頭を下げたとある。机をたたいたり、茶碗を割ってあばれたことがあるでしょう。こどもは遊びが大好きで

おもちゃになるものはきまっていないが死んだネズミの尾を引張ってところがしては楽しんでるのが印象的だったという。ともあれある目的に対して自然物の選択と操作が高い水準に発達している。

次にチンパンジーのバラエティに富んだ挨拶について一瞥してみよう。彼等は平均8~9頭の家族集団できびしい順位やリーダー制、なわばりも極めてルーズで排他的でなく、それだけ交友的で平和を維持するために挨拶といえる伝達法が発達したものと考えられる。

樹上で簡単なベッドを作って眠るが朝夕大声で呼び合い、一頭が始めると仲間が一斉に唱和する。樹上をとび回わり、枝をゆすぶり幹をたたいて興奮する。カーニバルとかダンス呼ばわりする人もあるが視界外の仲間と連絡する挨拶で合流するとひと時騒いではじめておちつく。サブグループをつくっていたものが朝はじめて出合った時、数日間離れていたものが出合った時、又一個体が他個体の近くで食物を取る場合等でまちまちではあるが同じグループの常連でないものが社会的緊張をさけるために一方が手をさしのべると片方が面倒臭さそうに片手をのぼす、両者がバトンタッチのように手に触れるだけであるが握手の起原が見られる。又雄同志であったが互いに手を相手の背にまわして抱き合った後毛づくろいをした。雄が雌の頭を左手でおさえ右頬を舌でなめた。母子や兄弟でキスも見られた。手又は口で相手の頭、顔、背中や体の一部分に接近又は接触させる一方的なもの相互に抱き合ったり、キスしたり、握手まがいのこともするが挨拶の受け手は常に優位である。挨拶は雄同志、雄と雌ではよくやるが雌同志では稀であったと報告されている。とかく雌の行動は自己中心、血縁中心で、雌同志では食物の分配、伴食関係は認められないが雄同志、雄と雌ではこの関係が成立する。ある挨拶の後雌が雄に近づき雄の食物と一緒に食べたり、雌が雄に手をのぼして要求すると雄がサトウキビを折って半分与えた事もあった。サトウキビを食べている雄に他の雄が背後から毛づくろいをさせてもらっていたが人間の不良が無断のかっぱらいや取りあいのけんかを平気でやっているのと比較して人間がどこまで動物的でチンパンジーがどこまで人間的であるかに気づきませんか。両者の共通は肉体的接触による挨拶は元来母子関係の安心感から生れて尾をひいているものでそれが同じ起原によるのか平行的に発達したものか、私はどちらでもあると思っている。(つづく)

ピーナッツ試験と ゴリラの死

来年はお猿の年なので、「なきごえ」もお猿にまつわるお話をいろいろ集めることになりました。ここでお猿の習性を中心に動物園でおきたできごとを御紹介しようと思います。

お猿の生態の研究については日本が一番進んでいるということは、この2月号にも紹介しました。この猿の研究の中にピーナッツ試験というのがあります。これは2頭の猿をならべて、その真中に上からピーナッツを落とすとこのピーナッツは何回やっても2頭の内の一方の猿しか手を出して食べません。これは手を出す方が序列が上なのです。序列の低い方の猿は上位の猿が満腹して無関心になり手を出さなくなるまでは遠慮して餌をとるようなことは決してありません。

野生で餌が広範囲にあるときは別ですが、動物園の檻の中の猿たちの生活の中にもしばしば見られます。ですから動物園で餌を与えるときは、少し多めになるだけ分散して与え、力の弱い猿にも充分わたるように注意しています。

このようなことがあるので、お猿が動物園でお産をしたときは、当分の間、母親と子供を別室に収容した方がよいと一般にいられています。このようなことは人間社会においては考えられないことです。もしも、お猿が人間のように作物をつくらったり、食物を貯蔵したり、計画的に食べるようになったら、ガツガツすることはなくなるでしょうが、彼等が野生から進歩しないかぎり、この習性は永遠に続くでしょう。

さて、ゴリラは一般の猿より食物を摂るときはずっとおおようなのですが、やはりこの習性があります。

お客がボンと投げた餌が2匹の中間に落ちたときは、決してめすの方は手を出しません。おすがのそり、のそりとやってきて食べるのをめすはじ

っと見ていました。めすは欲しくてたまらないのをこらえています。このようなことから、めすの近くに餌がおちるとおすに気づかれぬようにすばやくこれを食べていました。

心ない客がバッチやパチンコ玉や釘を投げたとき、おすであれば充分見たり、鼻で嗅いで、異物であれば絶対に食べません。しかし、めすはあわてて食べるので、ついうっかりとこのようなものを餌とまちがって飲みこんでしまうのです。

昨年10月にめすゴリラのリラちゃんに腹痛の症状が現れたとき、何度も糞の検査をしたのですが有害菌は出てきません。いろいろ薬を与えたのですが、いっこうによくならず、そのうちお腹がいたいので食物をとらなくなり、血液の混じった下痢便を出すようになって死んでしまいました。

これは、異物性の腸炎といって、くぎなどの異物によって腸壁が傷つき痛められた結果おこったものです。

私達がリラちゃんを解剖して原因が分ったときの気持ちを想像して下さい。せつかく大きくなって市民の皆さんの人気者となったリラちゃんをこのようにして死なせてしまったことは残念でたまりません。

お猿には、このような習性があることをよく知っていたら動物舎に書いてある注意書きに従ってみだりに餌などを与えないようにして下さい。(松岡恵爾)

なきごえ11月号もくじ

さるの話	2
ピーナッツ試験と ゴリラの死	3
動物園グラフ	4.5
カナリヤの ふるさとを訪ねて	6
動物園ニュース	7

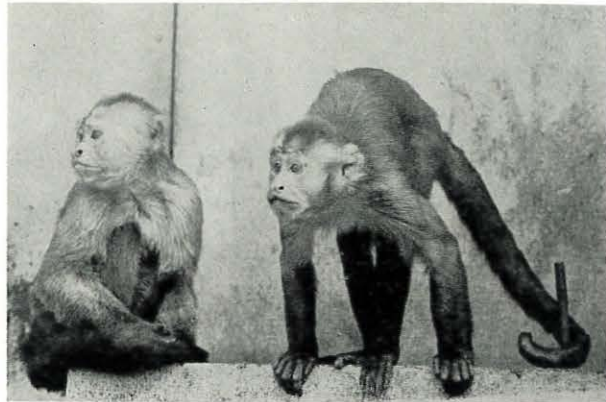
動物園グラフ

“さるの仲間たち” (I)

今年も余すところ1ヶ月余り。ひつじ年去り、さる年をむかえる。今月号から2回にわたって当園にいる「さるの仲間」をあつめました。当園にはさるの仲間が約20種ほど飼育されています。今回はさるのアパートにいるさるを御紹介します。

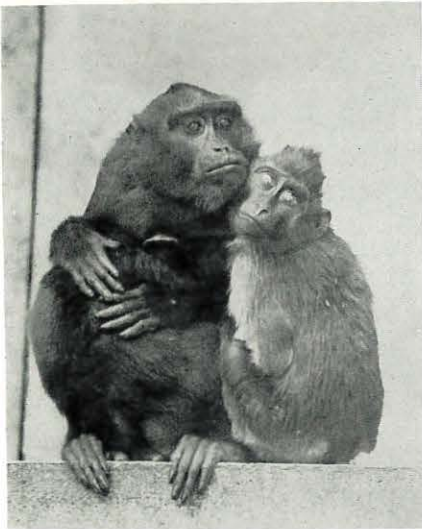


←まんといひ
北アフリカにすんでいます。おす(写真)は4~5才になるとかたに立派な毛が生えてきます。



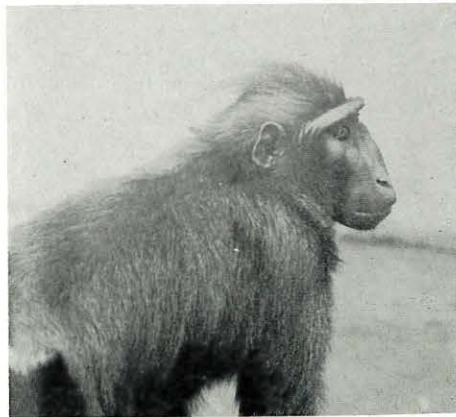
↑おまきざる

中央アメリカから南アメリカにかけてすんでいます。長い尾が常にまいていて木の枝にまきつけたりします。このさるは肉食をします。



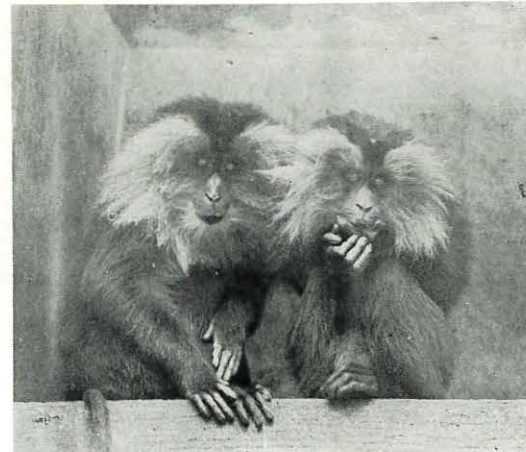
↑くろざる

セレベス島にのみすんでいます。体全体が黒いのでこの名があります。ひひの仲間に近いといわれます。四肢が灰色のものもいます。



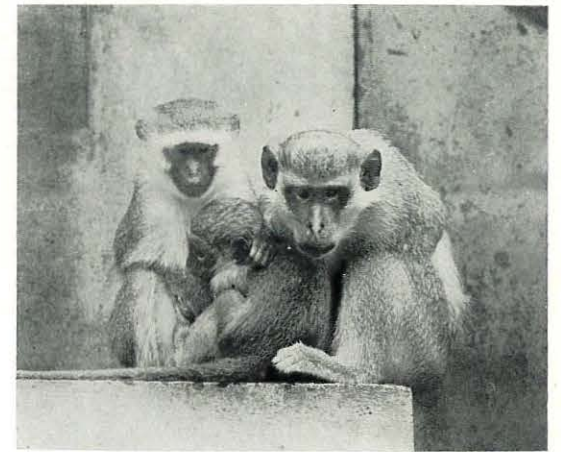
←かんむりくろざる

やはりセレベス島にすんでいます。頭の上に長い毛の冠があるのでこの名がつけられました。



↑ししおざる

西部インドにすんでいます。頭にはふさふさしたたてがみと、尾は房状になっていてちようドライオンに似ているのでこの名があります。



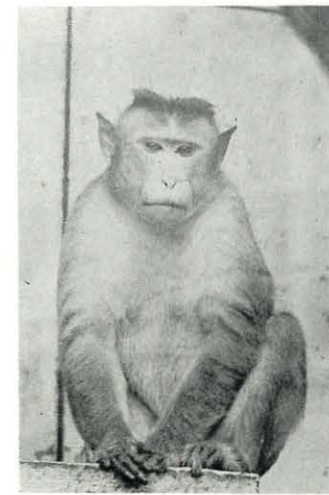
↑みどりざる

アフリカ東部にいます。毛の色がみどりがかった灰色をしています。常に樹上生活をしています。



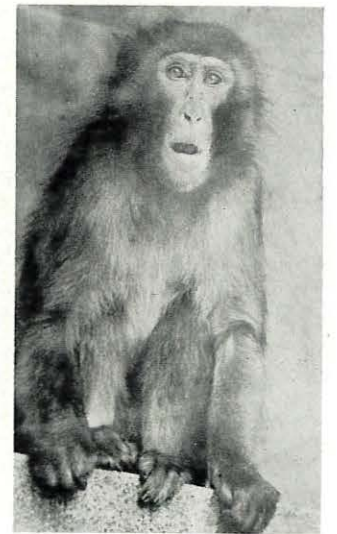
↑イクスざる

アフリカにたくさん群れをつくってすんでいます。首に美しい白い毛があるのが特徴です。



↑ボンネットざる

インドの森の中にすんでいます。頭の毛がカッパのようになっているところからこの名があります。



↑ほんざる

にほんざるは世界中のさるで一番緯度の高いところにすんでいます。

10月動物園日記

1. 先月8日に生まれたオリックスの赤ちゃんの体重を計ったところ19Kgもあり順調に成長していることがわかりました。今年人工ふ化させたにじきひのなにか病気が出てきましたので治療しています。
2. カンガルーのめすが直腸脱をおこしました。暖房ボイラーの火入れ式を行いました。
3. おおづのひなは順調に成長しています。体重は2.55Kgと1.85Kgでした。
4. きつねが胸腺腫という病気で死にました。
5. 7. 体育の日を前に動物たちの健康診断を行いました。ライオンの赤ちゃん(9月11日生まれ)は肺炎が悪化して死にました。
6. “秋の動物園まつり”がはじまりました。秋晴れの上天気に恵まれ、いろいろの催しも行なわれ2万入以上の入園者でにぎわいました。
7. 中馬大阪市長が来園し、国旗掲揚柱の寄贈式が行なわれました。
8. 大阪市交通局子供慰安会が催され、園内は親子づれでにぎわいました。
9. インドにしきへびとわには新爬虫類舎が完成しましたのでひ

10. っこしました。
11. 大阪祭参加の動物園こどもまつりが行なわれ、ステージでは人形劇や子供のど自慢など楽しい催しが行なわれました。
12. 日本鹿たちの角切りを行いました。これは秋になっておす同士が角突きでけがをするのを防ぐためと、入園者や飼育係にけがのないように行なうものです。
13. きりんのおすは前日の日曜にお客のやったお菓子をたべすぎてお腹をこわしてしまいました。
14. おおさいちようをくじゃくのフライングケージに入れ自由に飛びまわらせるようにしてやりました。
15. 小鳥舎が竣工しましたので、小鳥やいんこ類のひっこしをしました。
16. 朝の冷え込みがだんだんきつくなってきました。
17. きりんのおすはお腹いたがすっかりよくなりました。
18. おすのとからうまとめすのしまうまの雑種がうまれました。
19. ゴリラ舎、チンパンジー舎に夜間の暖房をはじめました。
20. きりん、さい寝室の電気暖房機の調整を行ない、いつでも暖房できるようにしてやりました。
21. きりんの赤ちゃんのペットネームはメリーちゃんときまりました。

カナリヤの ふるさとを訪ねて

—(その1)—

岡山県浅口郡鴨方町深田
平井飼鳥園

平井 猛さん

岡山県は日本一のカナリヤ生産県で毎年50万羽以上のカナリヤが国内は勿論、遠くアメリカ、ヨーロッパに輸出され4億円以上の外貨を獲得しています。

この莫大なカナリヤは一体、どうして生まれ、集められ、そして輸出されているのでしょうか？

この疑問に答えるべく初秋の或る日、岡山県鴨方を訪ねました。大阪駅を出発、黄金波打つ山陽道を約3時間、鴨方駅に着く。この地で親子二代にわたって約60年間、カナリヤの集荷、輸出を専門に業としてこられた平井さんを訪ねました。



ここは年中気候温暖で山に囲まれたこの地方はまことに静かな田舎町です。明治初期から農家の副業として小鳥の飼育熱が盛んで、現在1500軒位の農家が1軒当り20~30箱(1箱1番)から500箱程度飼っています。

ちょうど、近畿地方の農家が、鶏を飼っているように鳥小屋を建てて室の両側に30センチ角の飼育箱が3段に並べられカナリヤの鳴き声が賑やかに聞えてきます。こうして毎年3月から8月迄に一番の親から3回位ヒナを育て平井さんの集荷場に8月から翌年5月頃の間集められるわけです。こうして集荷されたヒナたちはここで雌雄鑑別し、1箱100羽単位に箱につめられ2日分のエサを入れてもらって羽田を發ちます。種類も並カナ

リヤを始め羽の色が美しい赤、黄、オレンジ、スタイルを楽しむ細、巻毛、大型なノーウィッチ、ヨークシャ等の種類に分れ性別はオス、メス殆んど同数でわずかにオスが多いとのことでした。これらの鳥たちは殆んど全羽無事目的地に着くそうで、唯、航空機の荷物の満載時には、下積みのものが日光不足のため採食不十分になって死亡する場合があります。

この事業のコツは、雌雄鑑別が出来る事が大きなポイントですが、カナリヤの場合、ヒナの時は大変困難で、長年の経験で握んだ時の感触と色彩で区別します。特にオスの場合、目付が鋭いのが特徴で適中率は80~100%だそうです。オス、メスのふ化割合は6:4位で1羽づゝ素早くつかんで1日2000羽位鑑別するので終いには疲れて視力が弱るそうです。

こうして輸出されたヒナたちもジフテリヤなどの伝染病にかゝって死亡したため莫大な損害を受ける場合もあって、こうした伝染病が一番こわいということでした。

外国ではこうした事のために、小鳥たちの病気の研究施設が充実していますが、日本は未だ何処にもないと嘆いておられました。又、品種改良も盛んで我国もこの二方面の充実することが今後の課題とのことでした。(つづく)

(中川道朗)

表紙の写真説明

マンドリル

アフリカにすんでいるひびの仲間です。顔やおしりの皮膚の色が大変美しいので、動物園で人気があります。

★カンガルーの赤ちゃん今日ハ!!



10月17日夕方母親のふくろから初めて顔を出しました。(写真) 長い間ふくろの中でお乳をすって大きくなりました。ふくろからキョロキョロあたりを見わたしては又顔をひっこめていました。

★とからうまとしまうまの雑種



10月24日朝待望の赤ちゃんがうまれました。しまうまのおすが死んでさびしくなっていたので、とからうまのおすを同居させていたところ今度のおめでたとなりました。

こんな雑種は今まで浜松の動物園に1度生まれたことがあるだけです。体の色はおすのとからうまに似て茶色ですが、後肢にうすくしまうまのようにしまがあります。

★動物たちの健康診断



10月7日例年秋に行っています類人猿の結核予防のための定期健康診断を行いました。数年前までは結核で死ぬ動物が多く出ましたので、早期発見をするために定期的に行っています。この日は、ゴリラのゴロちゃん、チンパンジーのよう子ちゃん、てながざるのクリちゃんがX線撮影を受けました。おかげで、こうした病気になる動物はなくなり元気に冬を越すでしょう。

(写真は、X線の透視をうけるゴロちゃん)

★ボイラーの火入れ式



10月3日、冬の寒さに弱い動物たちのために、スチームを送る重油ボイラーの火入れ式が行なわれました。チンパンジーのキャンデーちゃんが動物を代表して“神主”がわりをつとめ、器用な手つきでボイラーに点火しました。

まず、動物で一番の寒がりやのニシキヘビ、ワニにスチームが通されました。

★中馬市長を迎えて 国旗掲揚ポールの贈呈式



10月9日大阪読売新聞社から寄贈された3本のポールは野外ステージの後方にたてられました。この日、中馬大阪市長を迎えて贈呈式が行なわれました。動物園から園長や人気者のゴロちゃんそれに幼稚園児も多数参列し、一緒に大きな日の丸の旗をかかげました。

貸うば車と手荷物預り開設

入園者サービス事業として11月から始めることになりました。場所は中央門のとなりに設けました。気楽に動物をご覧いただくために大いにご利用下さい。

料金 うば車 1台 50円
手荷物預り 1個 20円

なきごえ 昭和42年11月15日発行（毎月1回15日発行）第3巻第10号（通巻30号）

編集人／和田辰巳 発行所／社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-8401

定価 40円

